

分野5：文化の分野における国際協力の実施

中期目標

文化、スポーツ、教育、知的交流の振興のための国際協力、文化の分野における国際規範の整備促進等の国際貢献を通じ、各国の国民が経済社会開発を進める上で必要な活力を与え自尊心を支えることにより、親日感の醸成を図る。

過去3年度（令和4～6年度）の主な成果	課題及び今後の方向性
1 【文化、教育、知的交流の分野における国際協力・貢献】 ● 日本はユネスコとの協力を通じて、開発途上国に対して人類共通の貴重な財産である世界の有形・無形の文化遺産の保護・振興、教育及び人材育成分野等での支援を行っている。令和4～6年度は主に、日本の専門的知見や技術・能力を生かした途上国における文化遺産の保存・修復事業（例：アンコール遺跡・バーミヤン遺跡）、災害に対するレジリエンス強化及び能力強化支援事業を、主にユネスコを通じて実施することで、事業実施国及び地域における対日理解・親日感の醸成に寄与した。 ● 日本に本部を置く唯一の国連機関である国連大学は、地球規模課題等の解決、SDGs達成等のための調査・研究を行うなど、国連のシンクタンクとしての役割を果たすとともに、大学院教育やセミナー、各種プログラムを通じた人材育成にも貢献している。令和4～6年度は主に、国連大学と連携し知的交流の振興のためのセミナー等を実施し、対日理解・親日感の醸成に寄与した。 2 【文化無償資金協力を通じた対日理解の向上及び親日感の醸成】 ● 令和4～6年度に、一般文化無償資金協力12件（総額約53億3,350万円）、草の根文化無償資金協力43件（総額約3億7,081万円）を通じて、日本の強みを活かし、または日本の顔が見える援助を実施したことにより、地域住民のニーズに対するきめ細やかな対応を可能とし、親日感情の醸成や対日理解の促進、信頼の獲得に寄与した。なお、文化無償資金協力は、令和6年度に国際協力局に移管した。	1 【文化、教育、知的交流の分野における国際協力・貢献】 ● ユネスコ及び国連大学における邦人職員の増強等を通じ、より効果的・効率的な拠出金の管理・運営を働きかけるとともに、日本の国際貢献を様々な場でより積極的に発信していく。 2 【文化無償資金協力を通じた対日理解の向上及び親日感の醸成】 ● 令和6年度以降、機構改編の一環として、ODAの戦略的活用等の観点から文化無償資金協力業務を国際協力局に移管したため、本分野の測定項目から削除する。

(主な取組)

1 【文化、教育、知的交流の分野における国際協力・貢献】

● 外交青書

国連教育科学文化機関 (UNESCO)を通じた協力

[2023年版](#)

[2024年版](#)

[2025年版](#) (PDF版 p.304)

国際連合大学との協力

[2023年版](#)

[2024年版](#)

[2025年版](#) (PDF版 p.303)

2 【文化無償資金協力を通じた対日理解の向上及び親日感の醸成】

● 外交青書

[2023年版](#)

[2024年版](#)

[2025年版](#) (PDF版 p.304)

● 外務省HP

[文化無償実績](#) (年度別内訳)

(注) 評価書を作成するに当たっては、外交青書、外務省ホームページ等を使用した。